



理工学庁イセンターニュース

No.105 2007.11

11月の開館時間

先月の入館者数
26,273 人

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

【カレンダーの見方】

通常開館

月～金:8:45～21:30 /土:8:45～20:00

休館

* 来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/calendar/calendar2007.html>

* 塾内各地区メディアセンターの11月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。

<http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/2007011.pdf>

目次

お知らせ	2
グループ学習室の予約利用	
文献複写取寄せ申込みについてのお願い	
電子図書館サービス	2～3
年内で提供中止となるデータベース / 電子ジャーナル (予告)	
KOSMOS II OPAC 新機能 RefWorks 連携	
雑誌の動き	3
コラム	3～4
新着図書紹介 『金属バイオマテリアル』	
著作権メモ 40 著作権の保護期間	

お知らせ

グループ学習室の予約利用

創想館地階のグループ学習室（定員：16名）は、学習を目的とした研究会や集会に利用していただけるスペースで、このたび室内のリニューアルを終え11月5日（月）から運用を開始いたします。試験期間中を除き、予約制でご利用いただけます。

申込責任者：教職員・大学院生・学部生

利用時間帯：8時45分～閉館30分前まで

予約：利用日の1ヶ月前から前日まで、貸出・返却カウンターで受付

詳細は、当センター閲覧担当（E-mail: riko-mccir@adst.keio.ac.jp, 内線40320～1）までお問い合わせください。

文献複写取寄せ申込みについてお願い

例年11月から1月にかけて、文献複写取寄せの申込み件数が増加します。レファレンス担当では、受付順に手続きを進め、できるだけ早くお渡しできるよう努力をしています。迅速に入手するために、皆さまにもいくつかご協力いただきたい点があります。

- ・文献によっては入手までに時間がかかることもあります。なるべく余裕をもってお申込みください。
- ・至急入手したい場合は、できるだけレファレンス担当に直接ご相談ください。入手期限、料金の上限をお聞きしたうえで、最良の方法で取寄せいたします。
- ・文献に関してお分かりの情報は、漏れなく、正確にご記入ください。
- ・校費扱いでのお申込みの場合、支出責任者はフルネームでご記入ください。
- ・お申込み後に、こちらから問合せをさしあげることがあります。連絡先は正確に入力してください。また、問合せメールには必ずご返信ください。

電子図書館サービス

* 電子図書館サービスについてのご意見やご質問は、当センターレファレンス担当（E-mail: riko-mcref@adst.keio.ac.jp, 内線40307）までお問い合わせください。

年内で提供中止となるデータベース/電子ジャーナル（予告）

全塾メディアセンターでは、限られた予算で有効な学術情報を提供するために、現在契約中のデータベースと電子ジャーナル（パッケージ購入のもの）の全面的見直しを行いました。その結果、代替資料が存在するため、あるいは対費用効果が低いために、以下のものを年内で提供中止とすることにいたしました。事情をご理解いただき、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

- ・ ISI Proceedings
- ・ Encyclopedia of Life Sciences
- ・ EBSCOhost Academic Search Premier
- ・ MEDLINE on Web of Knowledge
- ・ Oxford Reference Online
- ・ 他 人文社会系データベース数点

これにより削減された費用は、より必要とされているデータベースや電子ジャーナルの購入に振り向けます。具体的に契約を開始する資料の詳細は、決まり次第お知らせいたします。

KOSMOS II OPAC 新機能 RefWorks 連携

KOSMOS II OPAC のデータを文献管理ソフト「RefWorks」に取り込めるようになりました。

検索結果詳細画面で表示される「RefWorks ボタン」をクリックすると「RefWorks」のログイン画面が立ち上がり、ログインするとデータが取り込まれます。

OPAC のヘルプにも説明があります。

http://catalog.lib.keio.ac.jp/kosmos_help_5.html#5-5



フォトコピー / 小池康博, 多加谷明広著; 高分子学会編

出版事項 = 東京: 共立出版, 2004.6
形態 = v. 98 p., 図版(2) p.; 挿図, 19 cm.
シリーズ = 高分子先端材料 case point, 1
注記 = 参考文献 p. 1941-96
著者/団体/会誌名 = 小池, 康博
= コイケ, ヤスヒロ
= 多加谷, 明広
= タカヤ, アキヒロ
分類 = NDC9 578
件名 = BSH -- 重合性
= BSH -- 光学
ISBN = 4520043634

地区: [全て] [表示更新]

状態	巻号	所蔵地区	配架場所	請求記号	BOOK ID
在架		理工	本館2F一般図書	578@K20@1	50100339298
貸出中 (返却期限 2007/10/03)		理工	本館2F一般図書	578@K20@1@C.2	50100389147

雑誌の動き

【誌名変更】

洋雑誌

- ・ Journal of the Ceramic Society of Japan

(前誌: 日本セラミックス協会学術論文誌) Vol. 115, no. 1344 (Aug. 2007)-

和雑誌

- ・ 福井大学大学院工学研究科研究報告 = Memoirs of the Graduate School of Engineering, University of Fukui

(前誌: 福井大学工学部研究報告 = Memoirs of the Faculty of Engineering, Fukui University)

Vol. 55 (Mar. 2007)-

- ・ IHI 技報 = Journal of IHI technologies / IHI 技術開発本部

(前誌: 石川島播磨技報 / 石川島播磨重工) 47 巻 3 号 (2007.9)-

コラム

新着図書紹介 『金属バイオマテリアル』

塙隆夫・米山隆之 共著 コロナ社 2007年

金属は古くから歯科修復・補綴や骨折固定などに使用され、バイオマテリアルとして長い歴史を持っています。一方で、金属材料の毒性や劣化等の危惧から、人体への使用は好ましくないとの意見や、人工材料であるため生体材料として魅力がない等の考え方があるのも事実です。

しかしながら、金属材料は破壊に対する力学的信頼性が非常に高く、特に、医療用デバイスにおいては、主にこの力学的信頼性の点から他の材料で代用され得ません。体内埋入型デバイス(インプラント)の70%以上が金属製であり、金属はバイオマテリアルとして重要な材料であることがわかります。金属製デバイスをセラミックスや高分子で代替しようとする試みも、現在までほとんど失敗に終わっており、金属材料の重要性が再認識されています。

本書は、バイオマテリアルシリーズの第一巻として刊行され、金属バイオマテリアルの全体像がわかる構成となっています。材料工学を専門とし金属バイオマテリアルに関する知識を必要としている方々はもちろんのこと、工学系の他の分野で金属材料を学んでいない方々をも対象に、金属材料工学の知識がなくても通読できるように執筆されています。

材料工学関連の図書は、分類番号 492.89 の書架に並んでいます。あわせてご利用ください。

(請求記号: 492.89@B1@1-1 配架場所: 本館 2F 一般図書)

著作権法では、著作物を利用する際には著作権者からの許諾を得る必要があることを定めていますが、その著作物が創作されてから一定の期間が経過すれば自由に利用できることも保障されています。これを著作権の「保護期間」といいます。保護期間は、作者の権利を守る一方、一定期間を経た著作物は社会全体の共有財産となるべきものであるとして設けられています。

日本における保護期間は、作者が著作物を創作したときに始まり、原則として、作者の生存している期間プラス、亡くなった翌年1月1日から50年間です。作者が法人・団体名義の場合は、「公表後」50年間となります。また、映画の著作物では、2004年施行の法改正で50年から70年に延長されました(著作権法第51, 53, 54, 57条)。またこれとは別に、作者の気持ちを傷つけるであろう行為はいつまでも行ってはならないことも定められています(同法第59, 60条)。

この保護期間は国によって異なり、スーダン、セイシェルなどは死後25年間、韓国、中国、インドネシア、カナダ、エジプト、ケニアなどは日本と同じく50年間です。一方、欧州では70年間としている国が多く、米国では個人の著作物は死後70年間、法人等では公表後95年間です。保護期間が異なる国の著作物については短い方が適用され、たとえば25年間のスーダン < 50年間の日本 < 70年間のイギリスを例に挙げると、日本においてスーダンのものは25年間、イギリスのものは50年間の保護となります。逆に日本のものは、スーダンで25年間、イギリスで50年間の保護となります。

近年、日本では著作権保護期間を欧米並みの死後70年間に延長することについて議論がなされています。保護期間延長は、著作権者にとってはプラスになりますが、それを利用する側にとってはマイナスとなりますので、慎重な議論が必要といえます。

11/22(木)のサービス体制

11月22日(木)の午後に、全塾メディアセンタースタッフの研修会が予定されております。理工学メディアセンターでも多くのスタッフが研修会参加のため不在となりますので、特にレファレンスカウンター等のサービスが滞るかも知れません。ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお開館時間に変更はございません。

発行：慶應義塾大学理工学メディアセンター

E-mail: riko-mcinfo2@adst.keio.ac.jp

Home Page: <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/>

電子版のご利用はこちらから <http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/mcnews.html>